

丸善創業一五〇周年記念特別号 刊行にあたって

小誌「丸善創業一〇〇周年記念号」の巻頭に当時の社長・司忠が「弊社は明治二年一月呱呱の声をあげて以来、ここに創業一〇〇周年を迎えることができました」と述べていますが、半世紀前は「呱呱の声をあげて」という挨拶が普通であった？ことに驚きます。

創業五〇年から一〇〇年までの国土が灰燼に帰してから立ち直った半世紀と、その後の半世紀は使われる言葉以上に隔絶しているの言うを俟たないと思います。しかし、後半の半世紀の当事者であった私たちにとっては、この時代も疾風怒濤であったというのが偽らざる感想です。

「丸善創業一〇〇周年記念号」の巻頭には「顧みますとこの一〇〇年の間、私共は日本文化の発展とともに、その面においていささか微力を尽くして参りました。今日、弊社の歴史をふりかえりますとき、そこに多少の誇りを感じ、感慨の深さもひとしおでございます」という社長の挨拶がつづき、創業一〇〇年を胸を張って迎えたことが窺えます。それから半世紀経った現在、半世紀前の矜持を再度申し上げるのは無自覚というほかはありませんが、私たちも「文化と学問の発展に貢献する」という志を失うことはありませんでした。今後この志を持ち続けたいという切なる気持ちと、その一方ナルシズムや郷愁に浸ったり、その逆にことさら危機感を煽ったりすることも避けたいという思いでこの「特別号」に臨みました。そこで、創業時までスコープを伸ばして、適度な距離を保ちながら一五〇年を振り返るのが一つのたしなみであろうと考えました。

創業者たちの思いをはじめ、丸善の事業を象徴する、あるいはそれに関連するエピソードや論考をご執筆いただき、さらには小誌に馴染みの深かった方々のご関係者に、その面影をご寄稿賜りました。また、かつて小誌に載った広告や出版の歴史を紹介してみました。これらについては資料的な意味があるか否か、読者諸賢のご判断に委ねるほかはありませんが、初めての試みとしてご寛恕賜れば幸いです。